

大阪労山アタックプラン

2011年までに最高峰をめざす —— 泉州労山 ——

常任理事 女性委員会

内海 美代子

泉州労山では12月19日に箕面の山で読図山行を行うと11月の女性委員会主催料理講習会に参加していただいた大西さんから連絡を頂き、地元の私は興味を持ちおじやま山行することにしました。泉州労山では今年に入り11人も入会者を受け入れ大変元気が出ている事を理事会で報告、大登研でもホームページを紹介し、しかもその「掲示板」は常に活動報告を更新しているという驚きがありました。さっそくダムに向かう滝道の道中にいろいろ会のことを聴きながら歩きました。この日の前日にもふ厚い手作り資料のもと、参加者13人全員が座学を学んで参加したとか。現在会員数43人、一時低迷期があったがここ数年徐々に新しい入会者を迎え平均年齢も年々若返っているとのこと。そして今年創立45周年で記念誌102ページ仕立ての「やまなかま」を発刊しました。月1回の室内例会は毎回30人前後の参加者とミーティング前15分間のステップアップ講座を用いて技術を学びあっているそうです。泉州地域のみならず遠方から1時間半もかけ熱心に参加している会員さんもいらっしゃるとのこと。会の運営に企画部があるのも興味深いところでした。この数年の山行平均数は60回ほど、公開ハイキングも年2回を取り組んでいます。



読図風景・K氏より提供

箕面の滝より3~4人の班分けにし、1班に必ず指導者をつけ勝尾寺までポイント、ポイントで地形や等高線からコンパスの使い方を学びました。休憩中あちらこちらで撮っている人がいるので昼食タイムかとお聞きするとすべて行動食で山行しているとのこと。

記念誌の裏表紙の写真に赤木沢のスタート地点を10人が楽しんでいる姿から山行の幅の広さが伝わって来ます。今回の読図山行でもK氏がカメラを片手に色々なアングルから写真を何枚も撮りそれをホームページに載せ、会の内外に発信して行く丁寧さが伝わってきました。ホームページの入会案内に掲げているように安全登山を第一に心がけ、より高度な技術に裏付けられた指導者と共に、幅広い登山を楽しむ。その通りでした。若い世代をスムーズに受け入れ幅広い年齢層であることが、これからの労山の未来を見させて頂いた有意義なおじやま山行でした。

第28回

初級岩登り教室

Climbing School for beginner's.

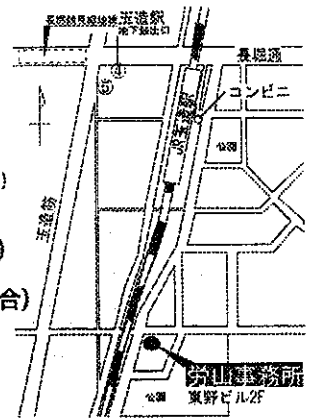
受講生募集

主催 大阪府勤労者山岳連盟

大阪府勤労者山岳連盟主催初級岩登り教室を、2011年春も下記要領で開校します。初めて岩登りする方はもちろん、今後連盟の初級、中級登山学校に入ろうと思っている方も奮って御参加下さい。
なお、参加される場合は、労山の遭難対策基金または一般の山岳保険に必ず加入してください。

- 募集人数** 20名。 (定員になり次第しめきります。)
- 受講料** 7,000円 (参加費は第1回座学当日御支払い下さい。交通費食費等、各自別途必要)
- 必要用具** クレッターシューズ、ハーネス、ヘルメット
(各自で用意して下さい。) ください。座学で用具の説明をしますので購入の際、参考にして下さい。)
- 座学日程** 第1回 3月1日(木) 大阪府勤労者山岳連盟事務所 大阪市東成区東小橋2-1-1東野ビル2階
19:00~21:00
(環状線玉造駅ガード沿い南300m)
Tel 06 6972 2057 Fax 06 6972 2058
※必ず出席して下さい。
オリエンテーション、クライミング用具、基本の結び方

- 第2回 3月17日(木) (予定) (室内壁:レベルテン)
19:00~21:00
(JR東部市場前駅下車 / TEL:06-6756-8182)
トップロープでのクライミングの練習
*人工壁での実習ですので、動き易い服装を用意して下さい。(更衣室あり)
持ち物等については開校後お知らせします。



- 実技日程** 第1回 3月6日(日) 蓬萊峽 (阪急宝塚駅、バス停9:00集合)
第2回 3月27日(日) 百丈岩 (JR宝塚線、道場駅前9:00集合)
*都合により、日程、場所は変更される場合があります。
授業中の事故やケガについては、いかなる場合も応急的な処置しか致しませんので、各自ご了承いただいた上で、お申し込み下さい。

申し込み 大阪府勤労者山岳連盟 教育遭対部宛
開校日までに、必ずTEL/FAX (06-6972-2057/06-6972-2058) で申し込んでください。
定員内の場合は、開校日以前に、特にお返事は致しませんのでご了承下さい。

大阪府勤労者山岳連盟 教育遭対部 御中

第28回初級岩登り教室受講申込書

(第1回座学 3/1に提出して下さい)

ふりがな		生年月日		血液型	
氏名:		男・女		19 年 月 日	
住所 〒			PC address:		
TEL:			携帯:		
FAX:			携帯 address:		
緊急連絡先(必ずご記入ください)		氏名:		(続柄)	
住所:		(都・道・府・県)		TEL:	
(都・市・町)		(緊急)		FAX:	
(緊急)		(緊急)		(緊急)	
職業		所属山岳会		岩登りの経歴	
遭難対策基金		山行歴		年 年	
<input type="checkbox"/> 加入(<input type="checkbox"/>) <input type="checkbox"/> 未加入		<input type="checkbox"/> 一般山岳保険 <input type="checkbox"/> 未加入		現在治療中のケガや病気 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 付()	

記入もれの無いようお願いします。

2011年 子供の冒険学校始めます。

—スタッフを募集しています—

子供と遊ぶのが大好き、キャンプファイヤーを盛り上げる特技を持っている、昔ボーイスカウトや子供会のリーダーをしていた、などなど。

企画・運営等の事務方、ハイキングやキャンプリーダーなど自分の出来る範囲での参加で結構です。

まずは、スタッフ交流会を行い、構想を練り上げ、実行委員会を立ち上げようと思います。

興味のある方は、下記までご連絡願います。



冒険学校とは、ハイキングやキャンプそして夏には沢登りを通じて、子どもたちの冒険心をはぐくみ、自然との一体感を満喫するという企画です。

スケジュール案

準備期間

11月	スタッフ募集
12月～2月	スタッフ交流兼ねたハイキング
2011年2月	実行委員会立ち上げ
2011年6月	募集開始

冒険学校プログラム案

7月下旬	ハイキング	近郊
8月下旬	沢登り	坊村白滝谷
10月上旬	キャンプ&ハイキング	近郊
11月下旬	1000m級登山	未定

大見 則親 (所属会 アウト・アドベンチャー・ズ) まで、お気軽にお問い合わせ下さい。

電話：FAX : 059-346-5803 E-mail: ohmi@yabumi.jp

自然保護のページ

2011年2月

<1月13日 自然保護委員会の報告など>

★ クリーンハイクの準備について

今年こそ3月総会までに大阪労山のクリーンハイクポスターを完成させるべく、山城一担当労山の確認作業を1月より開始します。各山域の担当労山間で任務分担の話し合いも必要かと思ます。その辺り、早急に協議を開始してください。

ポスターの作成を全国に要請しましたが、予算の都合で今年もポスターはありません。去年同様、PDF ファイルの送信となりますので、大阪連盟あるいは各山域でポスターを作成となります。

★ 大阪連盟総会の自然保護（案）のポイント

クリーンハイクは、自治体の協力で不法投棄ごみ回収にチャレンジを！！

里山調査を大宣伝で多くの参加を！！

ボンボン山の森林保全活動に参加を！！ 過去の情報提供に協力を！！

自然保護憲章の具体化・行動提起を積極的に！！

山の野生鳥獣目撃レポート活動に参加を！！

★ ライチョウ目撃情報

全国連盟 (raicho@jwaf.jp) に連絡し、そのことを沢村に報告願います。

冬季、ライチョウの目撃情報はたいへん貴重です。必ず情報願います。

Fax : 072-264-6138 または sawadesu@koala.odn.ne.jp

1/22 現在：らいちょう 15件 くま 2件

★ 自然保護委員会は、基本的に第2木曜日を委員会とします。

次回、 2/10 (木) 3/10 (木)

<1月15日 近畿ブロック自然保護委員会の報告>

滋賀労山：比良スキー場跡地の工事概要決まる

今年春より京阪電鉄がごみ撤去、土砂流出防止、埋戻し工事を行う。

ごみ搬出はヘリコプターで行う。工事専用の仮設宿舎を設置する、など。

奈良労山：奈良県大気汚染常時監視局（大台ヶ原）のデータ入手

奈良県としては、居住地の汚染状況推移の評価のため、バックグラウンド値として大台が原で測定中とのこと。ところがオキシダントなどが予想外に高く驚いている模様。

本山寺・神峯山寺の森林と自然

くだら じやくにん

百瀟 寂仁 (本山寺住職)

(本山寺・神峯山寺の森林保全協議会)

社団法人 大阪自然環境保全協会 機関紙「都市と自然」より転載

いにしへ
往にし方の昔、本山寺、神峯山寺は、修験道の祖と云われる後の行者によって開基されたと伝えられる古刹であり、共に中興を光仁天皇の皇子、開成により、堂宇が建立されました。毘沙門天を本尊とする山岳仏教寺院です。

本山寺よりなおコースを進むと、ポンポン山(加茂山)山頂に立つが、これより、洛北、洛中、洛南のほぼ全域が見渡せる他、遠くは比良山南稜、比叡山、東山そして北山の峰々、北には愛宕山を望むことができます。この愛宕山には、明治の廃仏毀釈までは愛宕山々寺(阿多古山)という山岳寺院があり、これより、箕面の瀧安寺(みのうの瀧)までを行脚する修験者の行場として栄えました。本山寺も神峯山寺もその中間地点です。

本山寺は戦国時代の戦火(天王山の戦い)によって焼失するも、豊臣秀頼によって再建され、綱吉の母桂昌院により本堂の大修理、庫裡の再建をみて復興しました。特に本尊毘沙門天に対する当時の武将の崇敬がいかに厚く真剣であったかは、寺領の所有を認めた文書や安堵状、禁制書、寄進の品々を見てもわかります。

高槻の歴代城主の安堵状には、境内剪採竹木とあるように厳しく伐採を禁止していることがわかります。

本山寺境内の竹木を剪採することを
先々の如く堅く停止しめ
若し違反の族に於いては
速に厳料に処す可者なり
よつての状件の如し

○年 ○月 ○日
高山 右近 允出

このようにして明治までは、本山寺・神峯山寺の森林の保護と自然が保たれ護られてきました。しかし、明治の廃仏、政府発布による上地令(華げ地令)、寺領の召し上げと太平洋戦争終結によるマッカーサー指令により山林の大半が国有化(現



本山寺国有林)、田地畑地の民有となり、保持されてきた樹々は伐採され、後に植林がされるも、園費の減額により営林署の経費削減、後には林野庁への編入となり、益々林地内(国有林)の荒廃が進み、これを園に問うと「唯今は休養林です」との答えが返ってくる始末です。



中央が百済住職(6月の自然観察ハイク)

現在、わずがに残った本山寺の森は府下唯一の「モミ」「ツガ」の林(針葉樹)で、大阪府指定第1号の特別保全地域(1978年)、また、神峯山寺の森は同じく府下唯一の「カシ」「シイ」などの常緑広葉樹の林です。この大切な自然を何とか維持保全しようと本山寺と神峯山寺の住職は先代より引き継いで府民の方々のためにもと境内を提供し、自然観察会、野鳥の会、自然学習会などを開いてきました。春には樹々の芽生え、境内の花々が咲き、夏には樹々の木陰に集う人々、秋はモミジが紅に染まります。

しかし、近年「ニホンジカ」の生息数が年々殖え続けているのは全国的です。大阪府下においても北摂山間部、能勢の里山、農地、林地の食害の報告はすごいものです。本山寺の森、神峯山寺の森においても年々殖え続けて林地内の下草、若樹、稚樹、植林樹を食害し、樹皮を剥ぎ、森林の生態系を大きく崩しています。林間の灌木がほとんどなくなり(食害)、谷よりの上昇気流により地表が乾燥し保水力がなくなって樹木の立ち枯れが見られる

ようになりました。

以上のように大阪近郊にあって、大変貴重で豊かな自然とすばらしい環境を何とか護りたいとの思いから「本山寺・神峯山寺の森林保全協議会」を設立いたしましたところ です。

宗教者(僧侶)としては、次の三本柱を中心にとらえて参拝者に布教活動を行っているところです。

一、「奉仕」—感謝の心で活動する。

一、「命」—生きとし生きるものすべてを大切にす。

一、「共生」—共に命を大切にし、思いやる心を持って生活する。(共存共栄)

しかし、その根本になる自然が崩れてしまつては…!。との思いからご賛同いただける方々に呼びかけているところです。

今、山寺は気温8度、ストーブに火を入れました。エンピツを持つ手が冷たいです。妻がコーヒーを持ってきました。もうすぐ夕食かな…事務所のガラス戸より夕暮れの庭を眺めています。4頭のメスジカが茶色くなった芝草を食べています、遠くでオスジカが声高に長く尾を引いて鳴いています。本当に冷えてきました。



2月のモミ・ツガ林

百済寂仁さん(本山寺住職)

「本山寺・神峯山寺の森林保全協議会」発起人。大阪府森林保全員をはじめ自然保護の立場でも活躍されています。

※この文章は10月末頃に執筆頂いたものです。

クリスマス寒波と年越し寒波

2010年12月31日の500hPa北半球天気図を見て

大阪ファミリー山岳会 喜多 寺

(一) クリスマス寒波で大阪も初雪

昨年暮れ、12月25日のクリスマス寒波で、大阪、岡山、高松、静岡などで初雪が観測され、福島県の会津若松で積雪115cm、富山で24cm、福井で11cmの積雪を記録しました。

(二) 年越し寒波で山陰で大被害

12月31日から1月2日にかけての年越し寒波は、九州長崎で10cm、鹿児島で7cm、京都で2cmの積雪を記録、スキー場も逆風のマキノスキー場の積雪が30cmから70cmに増えるなど、山陰各地にも雪を降らせました。この寒波でとくに大雪に見舞われたのは山陰地方で、大山山麓の中ノ原スキー場の積雪は、12月31日に60cmであったのが1月3日には200cmになっています。

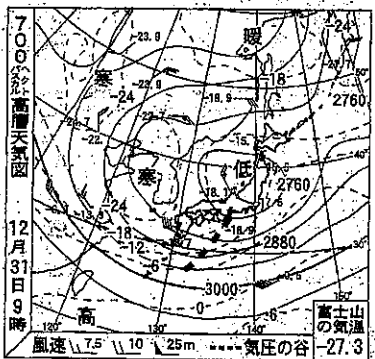
この豪雪で、奥大山スキー場で雪崩が発生し4人が死亡しました。このスキー場では、朝9時の積雪が66cmであったのが、雪崩の発生した午後1時過ぎには119cmになっていて、3時間半に43cmもの雪が降っていたのです。

山陰地方では、このほか、漁船の転覆や、JR特急や国道での車の立往生など大きな被害が出ました。(次頁の新南報導を見て下さい)。

(三) 年越し寒波の天気図を見る

次頁は、12月31日21時の500hPa北半球天気図、年越し寒波の襲来した日の上空約5,400mの大気の流れと気温を表わしています。

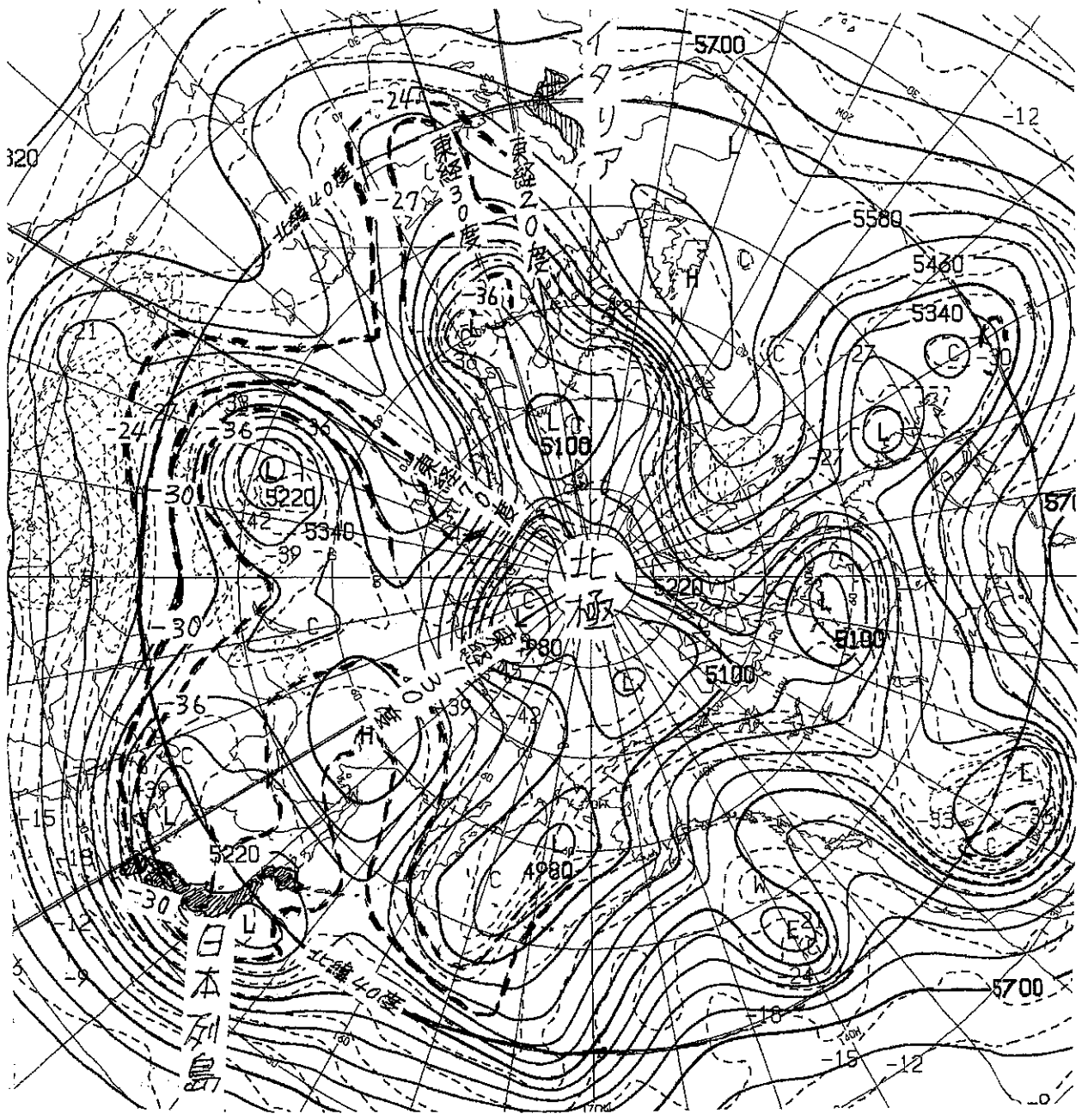
また、この頁の右に掲載した、同じ日の9時の、700hPa高層天気図は上空3,000mの大気の流れと気温を表わしています。(次頁へ続く)



↑ 上空3000mの各地の気温と、地上の気温(赤旗気象観) ↓

31日の気温と天候(15時)

	最高	平年	最低	平年	天気
札幌	1.8	0.5	-4.9	-6.2	曇
仙台	6.1	6.6	0.4	-0.9	俄雨
新潟	6.7	6.7	0.2	0.9	曇
東京	10.5	10.7	2.5	3.0	快晴
名古屋	3.9	9.8	-1.2	1.3	曇
金沢	3.5	8.3	-0.7	2.0	俄雪
大阪	4.5	10.3	2.5	3.3	曇
京都	5.6	10.7	-0.4	2.5	晴
広島	3.5	9.2	-0.1	1.9	俄雪
岡山	5.2	10.3	1.3	1.9	曇
福岡	3.8	11.0	1.4	4.0	俄雪
鹿児島	3.8	13.7	-0.1	5.0	俄雪
那覇	13.5	19.9	12.0	15.2	曇



(上図) 500hPa北半球天気図 2010年12月31日21時

(四) 高層天気図のどこを見るか

この頁の天気図で、実線で表わされている等温線のカーブが、北緯40度より南(外側)に出ているところが、寒波が北緯40度(日本列島では秋田付近)以南まで南下していることを表わしています。12月31日21時の日本列島は、すっぽり寒波に覆われ、その状態は東経70度付近まで続き、さらに、イタリア西方、東経30度付近で大きく南下しているのです。上空の大気が1日平均経度10度東進してくるとすれば、(次頁へ続く)

大雪新年を直撃

係留の漁船など189隻沈没

山陰各地

一時1000台立ち往生

港湾

先月31日からの大雪で、鳥取県内の漁港に係留された漁船など少なくとも191隻が沈没するなどの被害が出たことが2日、分かりました。

県が2日、県内5漁協などに漁船の被害状況を電話で確認したところ、境港市内や米子市内などの漁港や船着き場で、漁船やレジャー用の船計189隻が沈没し、漁船2隻で浸水がありまし

た。1隻を除く190隻はいずれも10センチ未満の小型船。31日から降った雪の重みで沈没するなどしたとい

国道

鳥取県の日本海沿いの国道9号で12月31日から2日にかけて、大雪のため最大約1000台の車が立ち往生しました。

国土交通省は除雪作業のため、大山町と琴浦町の間約23キロを通行止めにしていました

が、立ち往生が解消されたとして、2日午前8時25分に解除しました。

J R

鳥取県大山町のJ R山陰線下市・御来屋間では12月31日午後4時15分ごろ、鳥取発新山口行きの特急「スーパ

ーおき5号」(3両編成)が大雪のため動けなくなりしました。乗客約130人中11人が体

調不良を訴え、うち3人が病院に搬送されました。

おき5号は2日午前1時50分ごろ、約34時間ぶりに運転を再開

した。00人が1日にかけて列車内で年を越しまし

雪崩で4人死亡

鳥取のスキー場

31日午後1時20分ごろ、鳥取県江府町の町営奥大山スキー場で、職員

の男性ら4人が雪崩に巻き込まれたと119番が呼びました。4人は約1時間後に救出されました

が、搬送先の病院で死亡が確認されました。

松本直紀さん。山根さんはスキー学校の指導員で、藤崎さんと松本さんはボランティアのバトリ

員藤崎浩行さん(39)と

同町によると、午後0時40分ごろ、中級者向けの一女良谷コース付近で小規模の雪崩が発生し、長岡さんら4人が確認に向かいました。別の同僚2人が圧雪車などで現場に到着した後の同1時5分ごろ、2回目の雪崩が起き4人が巻き込まれました。4人は約2分の雪に埋まったといま

2011年1月1日 しんぶん 赤旗

(前頁より) 12月31日の10日～11日後の1月10日頃には日本列島上空に強い寒波が来ることが予測できます。

なお、前々頁の700ペナル高層天気図では、上空3,000mには、-24°の強い寒気の1団が東支那海にあり、西方につながっていて、年越し寒波が予測できる天気図になっています。

2011年1月3日

しんぶん 赤旗 より抜粋

2010年10月22日

平井 隆雄

中央アルプスを木曾谷から伊那谷へ抜ける道に権兵衛峠道がある。その峠から盛り上がった所が経ヶ岳で、慈覚大師がお経を納めたと伝えられている信仰の山である。中央アルプスの北の端、高速道からも眺められる形の良い山、麓にある仲仙寺から登山道が始まっている。標高差が1400mある長い登りになっている。

古刹仲仙寺は羽広観音とも云われ、その裏側は鬱蒼とした樹林の中の道で見事な赤松の林が続いている。今年はキノコが豊作、色々なキノコが沢山あちこちに見られ、今も車が入っていてキノコ取りの人達と思われる。松茸もありそう。

坦々とした歩き易い道がユックリと高度を上げて行く。やがてカラマツの林になり、落ち葉の埋まった感じの良い道が登っている。程良く紅葉していて美しい。

四合目で古い林道が合流している。五合目は林の中、七合目は尾根を飛び出した展望の良い所、伊那の町並と南アルプスが眺められた。標識もしっかりとしている。単独行者が二人下って来ている。かなり早い速度である。

カラマツの林は山頂近くまで広い範囲に見られ、又今見事に紅葉していて光に当たり赤く輝いて綺麗である。カラマツの落ち葉の道は歩き易い。

ユツタリとした道は山頂まで続き、ユックリの登りで山頂に到着する。展望は樹林越しの為あまり良く無いが、南アルプスが一望である。幾つかの板状の石碑が数本立てられ古い信仰の山である事が伺われる。

下りは同じ道、歩き易い道の為滑るようにして降りてくる。松林の中では地元の人がキノコ取りを終えて帰る所であった。松茸は無く、白っぽいスギ茸のようなものが大量であった。

今夜は仲仙寺の駐車場にテントを張る。

羽広(9:30)→経ヶ岳(14:05)羽広(16:45)

有明山 2268.3m 2010年10月23日

北アルプスの前衛峰の為、以前から行きそびれていた山である。表銀座入口の中房温泉から北アルプスに背を向けて登って行く。独立峰の為、形が良くて安曇野富士・信濃富士・有明富士などと呼ばれている。一気登りの傾斜のきつい山である。有明山荘の裏手から登山道は始まっていて、こちら側は裏参道になっている。今、一人の登山者が先行して行った。

いきなりの急登が始まる。花崗岩の山で岩場が多く、コマツガ・シラビソなどの樹林帯とシャクナゲが多い。大きな岩が立ちはだかり、それを避けるように登り道が上がって行く。丸太を連ねたハシゴもある。朝早くの登りはすがすがしくて気持ちが良い。ピッチも上がる。今日は快晴でまことに良い天気、青い空が一杯に広がっている。高々とした山稜に朝日が差し込み、暗い山裳が次第に赤くなって行く。白くザレた瓦礫の山は燕岳であろう、深い谷を隔てたはるか高い場所に山小屋が見える。

一刻激しく登ってから巻き道に入る。屏風のような巨大な岩壁に、危なかしそ

うに巨岩が垂れ下がっている。その下を細道が上がったり下ったりしながら斜面をへつって行く。見上げれば崩れそうな微妙な位置に巨岩が停まっている。「落石注意」の標識もあり、雨の日には恐い事であろうと思う。右に左に上に下にと複雑なコースになっていて、ルート選択に疲れる。

急斜面に垂れている連続するロープを何本か登って行くと、やっと尾根に出て来る。青い空の下に双児峰の形の良い山が正面に見られる。特長のある山、鹿島槍であろう。後立山の総てがそして表銀座の大天井岳・常念岳まで北アルプスの峰々がくつきりと眺められた。さらに続いて青い空に浮かんでいるのは、妙高連峰の山々と浅間山の峰であろう、ぐるりと見渡せた。

さらに痩せ尾根を少し登ると山頂であった。鳥居と有明神社の奥社が祀られている。ベンチがあり展望台になっている。神社の裏手を少し進むと三角点があった。南の方角はるかかなたに鮮やかに大きな富士山の姿があった。さらに八ヶ岳と南アルプスであろう、真に展望の良い場所である。太平洋から日本海までの総ての山々が一望である。天気が良くて良かった。ゆっくりと景観を楽しむ。

下山は同じ道を下って行く。急斜面の連続で落ちるようにして下って行く。登って来ている幾つかのグループに出合った。登り4時間半、下り2時間、登降の激しい山であった。降りてから、源泉100%掛け流し中房温泉露天風呂でゆっくりと汗を流す。気持の良い、スカッとした山であった。

有明荘(6:15)―有明山(9:30-9:50)―有明荘(11:50)

安平路山 2368.1m 2010年10月24日

中央アルプスを越える道が南部にもある。木曾から飯田へ抜ける街道大平街道は、妻籠宿・大平宿・飯田宿へと続いて古くから利用され栄えていた道である。しかし峠にある大平宿は過疎の為昭和45年50戸を最後に全村廃村になったが、今は廃屋も建ち並ぶが「いろりの里」として甦り、宿泊も出来るキャンプ地になっている。この山の登山口はここから始まっている。

飯田から大平街道への入り口がわかり難かった。8号線にやっと入って行く。谷間の曲がりくねった狭い道が30Kmほど続き、飯田峠を越えてやっと大平宿に着く。さらに林道が10Kmほど奥に入って行く。名に聞こえた悪路、道路の中央には大きな亀裂、半分が砂で埋まって傾斜になっている道、石コロの転がるえぐれたミゾ、ガードレールの無い高い所、右に左に揺れながら、運転手さんお疲れ様。補修しても大雨ですぐに崩れてくるそうなので、雨降りでの入山は厳禁である。林道の終点に「摺古木山自然公園休憩舎」と言う小屋があり、中は比較的綺麗なのでここに宿泊する事にする。水場は無し。一台の車が帰る準備をしていた。今日はすでに15人程が下山して行ったそうである。

翌日5:30 夜明けと共に出発する。笹原の緩やかな道が登っている。ヤブを予想していたが、両サイドは綺麗に刈り取られ、手入れが行き届いていたので歩き易い。稜線が次第に明るくなり、紅葉の始まった山肌も順次明るくなって行く。赤や黄色が鮮やかに浮き上がり美しく輝いてくる。背後に恵那山が黒々と大きく浮かんで見える。

摺古木山へは自然園からの巻き道もあるが、直登への道を取る。笹の中の急坂

を一汗かいて山頂に出る。1等三角点のある広場、南アルプスの大展望台であり、又御岳・乗鞍岳・北アなどが一望できる。すでに西の空には黒雲が垂れ込め、天気は崩れて来ているように見受けられる。

シラビソの樹林帯が続くシラビソ山への道は、小さなコブを幾つも登り降りを経り返して進んで行くため疲れる。北風が強くなりミゾレが降っているかのように、シラビソの葉がパラパラと吹き付けて来て寒さを感じる。

シラビソ山は樹林の中であった。それを下って行くと避難小屋があった。立派な小屋であるが入り口の戸が開き難い。水場は近くには無かった。樹林に覆われた安平路山が正面に望まれ、後一息である事がわかる。その奥には南駒から木曾駒までの赤茶けた岩肌の稜線が続いているのが見受けられる。ここは中央アルプス最南端の山、全山縦走の時果たせなかつた山である。

急な樹林帯を登り切った所が安平路山山頂であった。狭い山頂であり展望は良く無い。寒くもありすぐに下る事にする。避難小屋に戻り帰り着いた頃には、すでに山頂はもう濃いガスに包まれていた。山の天候は激変する。

下りの途中に自然園へ寄り道する。ハイマツと湿原地帯があったが、水は無く干上がっていた。黒々とした林の中に点々と赤い実が多数輝いている。群生しているアカミノイヌツゲの赤い実が寒々とした林の中で印象的であった。

小屋に帰り着き登山は終了する。本日の登山者は他に無しである。又車で悪路を下って行く。昨日は気づかなかつたが、谷を隔てて山沿いの紅葉は見事であった。丁度見頃の時期、赤・黄・茶色、色んな色が夕陽に美しく輝いている。下り切った所で、何か道の真ん中で黒い動物がたたずんでこちらを伺っている。良く見ると大きな犬ほどの大きさのかわいらしい小熊であった。まもなく山肌に駆け上って行った。

大平宿で10食限定のキノコ蕎麦を食す。色んな種類のキノコが山盛り入っていて、真っ黒なお汁であったが美味しかった。あの小熊は度々出て来るそうで、人に危害を加えた事は一度も無いと語っていた。山奥の街道筋、霽田気の良い気持ちの良い場所であった。やがて待っていたかのごとく、大粒の雨が降り出して来た。

小屋(5:30)—安平路山(9:50)—小屋
(13:15)



アカミノイヌツゲ
ZZ. 10. 24.

本原稿には、筆者によって先月号分に補筆された箇所が含まれています。一部先月号と重複しておりますが、ご了承くださいませようお願い致します。(機関誌部)

日本の近代登山の黎明期

㊦ 早期登山者の群像

会員番号 18 番の志村烏嶺(うりょう)は長野中学の教師で、彼の登った白馬岳の写真がウエストンに送られ、英国アルパイン・ジャーナルなどに掲載され、ウエストンからの日本にも山岳会を作るように…という奨めがしばしば烏水などになされた。こんなきっかけもあり烏嶺は会員になった。中村清太郎という会員は写真や水彩画入りの回覧雑誌を発行しており「草の芽」には、山に魅かれていく気持ちがいきいきと描かれている。「…山ではあらゆるものが平地と同じではなく、求めるものが無限にあると感じている。苦しさは忘れて奥へ引き込まれていく…」と述べている。

私も 20 代の頃、初めての北アルプスの縦走で感じた槍の穂先をみながら歩いた高揚感みたいなものかもしれないと思った。

中村清太郎は明治 21 年(1881)生まれで、加賀正太郎と共に同年で東京高等商業学校の卒業生である。この加賀正太郎という人は、現在の登山時報の前身である山と仲間には時々記事が載った記憶があり、労山顧問の東京雲稜会「屏風岩の雲稜ルートの初登」の雨宮節氏はこの人のことを大先輩といい、この人の言行録を登山時報で紹介している。「…高いばかりが山ではない…」である。

この時代のことは、遠い歴史の彼方のことではなくて、今の時代につながっている。この人は労山顧問でもあった。これらの人は直接山岳会結成には関係しなかったが、早期会員として活躍した。

㊦ 文学との接点

文学者が山岳会に多く入会してきたのも、この時期で、知名の島崎藤村、北村透谷、与謝野鉄幹、島村抱月もそうである。明治文学の高揚期と登山のそれがちょうど合致した感じである。キーワードはロマンティズムである。封建的意識から解き放たれた国民のなかに自然(海や山)に対する強烈なロマンティズムの想いが起こり自然主義の文学という形で表された初代会長の小島烏水の「山水無尽蔵」という本に島崎藤村が序を寄せている。文語文を現代調に現すと「祖先は夢をみて、子供は行こうという。

暗い中世の昔より幾多の優れた先達がいる、山岳に通じる道路を開拓し自然の世界に入ることを教えてきた。このような祖先は皆豪邁(ごうまい)な創設者と云える。観察者、指導者と云える。惜しいかな、形式ばかりが今はあって、精神は埋没している。明治の今日、石に刻まれている霊神の名を見ること多いといえども、人を導いていくに足る先達は少ない。

多くの行者は自然の説明者でなくて山岳の案内者である。ここにおいて、別に山岳に通じる思想の道路と新しい先達が求められる。小島烏水氏の新著「山水無尽蔵」が完成した。思う

ところ、氏の様な人は進取の精神を以って遠い祖先の志を實踐するようなものである。私はこの書の読者が著者の精神に導かれて別途によって、自然の殿堂に登はんし得ることを疑わない。明治39年5月、藤村生。」…と。

小島烏水の「山水無尽蔵」への作家島崎藤村の序文に應えるかのように、烏水に代表する浪漫的山岳観を披瀝している。

「山は力の表現であって、山を中心としない自然美は緊張を欠くものとなり、本邦西の方では、「アルプスがあれば、他は何にも要らない」と声高にいう詩人がいるが、自分が遊んでいるところは、多くは日本アルプスの高俊山岳で、既に世に知られたものである。私は茲にこれらを描くとはいいません。唯、山を愛するが故に【我取適我】と云うのみである。考えてみると私は山の幻像をのみ追う捉えるところのない自然崇拜者に過ぎないが、されど頂上に登って雲の中で我を取り戻すという秘密の味を永世忘れることができない。この気持ちはどう表現してよいかわからない。明治39年6月/著者」このような山岳観は明治の自然主義文学に多くの影響を与えた。

㊟ 遭難

山行活動が活発になってくると、遭難が起こるようになった。明治38年(1905)の夏、府立一中生(日本博物同志会の母胎)の小牧厚彦は偶然にめぐり合わせた一行とともに乗鞍岳登山中、風雨の中4人と共に遭難した。

当時は日露戦争時であったので、戦死と比較してか一部に冷たい批判があった。本邦初の登山事故というだけでなく、貴族院議員の子息ということでジャーナリズムの話題になった。明治35年(1902)1月に起こった八甲田連峰に於ける陸軍の8連隊の雪中行軍訓練中の兵士200余名の遭難(これは高倉健主演の昭和52年作の「八甲田山」という映画になっている。今はDVD化され観賞できる。秀作といえる。「…天はわれらを見離したり…」)と相まって登山は危険な趣味と世間に曲解されかねないことは、山岳会を作ろうとしている烏水にとっては遭難事故は他人事とは思えなかった。

烏水は1ヶ月前に「日本山水論」を出版し、内容は登山の効果・効用を説いてはいるが危険については触れていない。不足と思ったのか「文庫」に遭難記を載せている。

㊟ 「わが山旅50年」田部重治著に見る明治の岳人

地方を代表する岳人に桜並木がいる。この人は東京帝国大学の英文科を出て、第4高等学校(金沢)の教授を明治38年(1905)～昭和8年(1933)まで務めた人で、田部重治(明治17年～昭和38年)によると、「…4高にいて、今思い起こしていい感じのするのは桜並木先生の存在だった。先生は明治29年の帝大英文科の出身で英文学者として優れていたばかりでなく、旅行家且つ登山者としても優れた存在であった。私は先生のお宅をよく伺って旅の話を聞いた。先生は白山にも立山にも登っておられ、立山には私の兄などととも針の木峠を越えて信州から登られ、白山へはどこから登られたか知らないが白川郷や白水滝のことなど話しておられた。…当時としては、登山界の尖端をいかれたわけである。…」と述べている。又、先号にも紹介した第6代会長の小暮理太郎のことをこの本には知り合っ一緒に度々山

に登った経緯を記している。先号にも書いたこの時代の文学との接点がある。「はがき文学」の編集部の木暮理太郎と意気投合した田部重治はしばしば山行をともにしている。彼のことに触れている。

④登山と教育制度

“山岳会”発足当初は日本博物会同志会の支会的な役割を果たしていた。その博物同志会の中心になったのは東京府立第一中学校の生徒であった。もちろん指導的な先生がいたわけだが、当時の府立一中から第一高等学校—東京帝国大学はエリートコースであった。帝国大学が京都、東北、九州に新たに開かれたばかりである。明治時代の登山の隆盛の流れをみても、アーネスト・サトウ、チェンバレン、ガウランドのような学究による登山の実践、その弟子たち、学生への伝達、地学協会などの自然科学者の登山、文人、作家の登山などアカデミックな色彩の濃いものであった。まだまだ働く人たちには縁遠いものといわねばならなかった。「…末は博士か大臣か…」と云われた帝大生はその頃、国全体で数千人くらいであったと思われる。また、当時の中学校は義務教育ではなく、進学率は明治33年(1900)には11.1% (男) 女学校は4.2%であった。現代に相当する高校への進学率は1960年代は60%を上回っている。現代では大学への進学率も2000年には50%に達している。当時はそれぞれの帝大に高等学校があった。

現在の学制は6・3・3制で大学は4年だが、旧制は中学校は義務教育でなく5年制であった。現在の中学と高校をあわせもったものである。高等学校は高等教育機関と位置づけられていた。3年制であり、理科と文科に分かれていた。これに相当する専門学校があり、私立大学もやっと認められたが、早稲田、慶応、日本大学など少数で、高等学校に相当する予科が置かれていた。官費の学校として、教師養成の師範学校や軍人を養成する陸・海軍の士官学校もあった。戦後、新制大学がこれらの高等学校や専門学校、師範学校を合併して設立された。大学数は当時は現在と較べて格段にすくなく、相当レベルも高かったようである。

明治31年(1898)には金沢の第4高等学校に日本で初めての旅行部ができ、登山を実践し始めた。この高等学校の桜並木教授が登山を指導した。山岳会結成にはかかわっていないが、北陸を代表する地方の会員であった。かの有名な哲学者の西田幾多郎がこの学校で教授をしていた頃である。大正時代にはいって、大学・高等学校の山岳部の活動は活発になる。第3高等学校(現京都大学)、甲南高等学校(現甲南大学)、早稲田大学、慶応大学などである。今も前穂IV峯正面に甲南ルートと残っている。屏風岩の慶応稜などもそうである。

(続) なにわ山の会OB会員安田一郎

遭対基金管理委員会 宛

事故一報

提出日 20 年 月 日

提出者 _____

地方連盟 _____ 勤労者山岳連盟

第二種団体加入 有 / 無

団体名 _____ 団体コード _____

フリガナ _____

事故者氏名 _____ 事故者コード _____

生年月日(西暦) 19 年 月 日 歳 性別 _____

遭対基金加入回数 _____ 基金加入年月(西暦) 年 月

事故発生日時(西暦) 20 年 月 日 時 分 積雪期/無雪期

事故発生場所 山域; _____

山名; _____

都道府県; _____

場所; _____

山行の形態; 無雪期登山 積雪期登山 登攀 冬季登攀 沢登り 氷瀑 人工壁 山スキー
クロスカントリースキー スノーボード 海外トレッキング 海外登山 訓練
事故の原因; 転・滑落 転倒 落石(落水) 道迷い 病気 凍傷 高度障害 火傷 落雷
雪崩 虫・動植物 荒天 その他 ()

事故の状況; _____

傷病名; _____

本件事件に関する問い合わせ先; 氏名 _____

連絡先電話番号; 自宅 _____ 勤務先または携帯など _____

給付の申請を; する しない 未定

給付申請書の送付先; 基金担当者 パーティリーダー 会・クラブ代表者 その他

氏名 _____ Tel _____

住所 〒 _____

★ 給付申請は、事故一報が**事故発生日から30日以内**に管理委員会に届いていなければ出来ません。時効で受給資格を失わない為に、いま症状が現れていなくても、また給付の申請をするか判断しない時でも、事故発生の報告をしましょう。FAX03-3235-4324 メール kikin@jwaf.jp
〒162-0814 東京都新宿区新小川町5番24号 労山遭対基金管理委員会 Tel03-3260-6331

事故一報は全国連盟に送付すると同時に、必ず大阪府勤労者山岳連盟宛にもご提出下さい。

丹波屋つうしん

機関誌部より

年末年始の厳しい冷え込み、身を切るような寒風にはホトホト参りました。幸い自宅近辺に積雪はなかったけれど、天気予報で雪だ、雪だと言っていた時には、通勤の事を考えて、ちょっとドキドキしました。

長期予報では、2月は幾分寒さが緩むとの事でしたが、週末にはまたまた寒気がやってくるとか。出かける予定に、今から何とも気が重いことです。

寒い寒いとぼやいている内に、年明けからもうひと月。どうしてこんなに月日のたつのが速いのか・・・連盟の総会まで、なんと残りひと月半です。年々会員数が減る傾向に歯止めをかけ、少しずつでも活発な会運営を目指し、その中で新しい会員を増やしていこうという流れの中で活動してきた一年。皆さんの会での成果はいかがだったでしょうか。

前回の総会でも少し話題に上がった会費値上げ。各会の意見や現状を聞くにつけ、連盟の活動状況が会員の皆さんにはなかなか浸透していない事が窺われる事も多く、どうしたらよいのか悩むところです。地道に活動をしていても、それが形として現れにくい場合はなお更です。

会員のニーズや希望をくみ、それに少しでも近づいていく事ができるような専門部活動を支えていただく為

に、引き続き体制と資金両面への、皆さんのご理解とご協力をお願いしなくてはなりません。誰かがつくった連盟ではなく、みんなで作り上げていく連盟にしていきたいものです。

来月の締切は2月14日(月)です。

今冬の厳しい冷え込みで、大峰の氷漠は例年になく発達している様子。アイスクライミングをする人や、写真を撮る人には願ってもないチャンス。少し前には、金剛山でも例年より早く美しい樹氷が見られると言っていましたね。比良も思わぬ積雪で、雪山をたっぷり堪能できるとか。ただし、あくまで自然が相手。どんな場合も油断は禁物。天候や積雪状況はしっかりチェックしておきましょう。お出かけ前の計画書作成、提出も忘れずに。今年もどうぞ楽しく安全な山行を!

機関誌部も、少しでも各会に連盟の様子をお届けできるよう、新年度に向けて新たな気持ちで活動を続けます。活力源は今年も別室丹波屋の冷たいビールと季節の味。いっぱい飲んで食べて、おもいっきりしゃべって、楽しく取り組んでいきたいと思えます。興味のある方、お立ち寄り下さい。いつでも歓迎です。

それでは皆様、今年も宜しくお願ひします。カンバイ!

今月も各会より会報を送っていただきました。

やまなかま(泉州労山)、FUKURO ニュース(福島労山)、安治川山の会ニュース(安治川山の会)、きたろうニュース(きたろうHC)、KONK ニュース(北大阪のぼろう会)、兵庫労山、京都労山、奈良県連ニュース、滋賀県連ニュース、都連盟ニュース、埼玉県連ニュース、労山おかやま、労山福岡県連通信、HC かざぐるま、山と友の会、山岳おおさか(大阪府岳連)、和歌山県連ニュース。

有難うございました。

編集・発行：入澤、大西清、大西秀、園、西村、服部、大久保、高橋、中井

* 先月の発行は、福島労山 小倉氏にお手伝いいただきました。

事務所使用予約一覧 2011年1月24日現在

2011.02月		2011.03月		2011.04月		2011.05月	
1	火	中級打ち合わせ	1	火		1	日
2	水	初級冬座学	2	水	中級	2	月
3	木	てんの会	3	木	初級岩開校	3	火
4	金	常任理事会	4	金	常任理事会	4	水
5	土		5	土	事故分析会	5	木
6	日		6	日		6	金
7	月		7	月		7	土
8	火		8	火	中級	8	日
9	水	ELF	9	水	初級冬修了式	9	月
10	木	自然保護委員会	10	木	自然保護委員会	10	火
11	金		11	金	女性セミナー	11	水
12	土		12	土		12	木
13	日		13	日		13	金
14	月	機関誌締切・編集	14	月	機関誌締切・編集	14	土
15	火		15	火	中高年HC	15	日
16	水	中級	16	水	山の会ボレボレ	16	月
17	木	山の会ボレボレ 組織部会	17	木	中級説明会	17	火
18	金	女性委員会	18	金	女性セミナー	18	水
19	土		19	土	中高年HC印刷	19	木
20	日		20	日		20	金
21	月	機関誌印刷	21	月		21	土
22	火	中高年HC	22	火		22	日
23	水	初級冬打ち合わせ	23	水	中級開校	23	月
24	木	代表者会議	24	木		24	火
25	金		25	金	女性セミナー	25	水
26	土	中高年HC印刷	26	土	つりばし HCげんごろう	26	木
27	日		27	日	YMCC総会	27	金
28	月		28	月	機関誌印刷	28	土
29			29	火		29	日
30			30	水	中級	30	月
31			31	木		31	火

事務所使用予約状況はこちらからもご覧になれます。
<http://calender.yahoo.co.jp/owafoffice>

大阪府勤労者山岳連盟 御中

事務所使用申込書

申し込み日 ()年()月()日 (: AM/PM)

申し込み責任者* 所属会 :
氏名 :

連絡先電話またはアドレス*:

*: 調整などに必要です。必ず記入下さい。

使用日時 ()年()月()日 (: AM/PM)

使用人数 ()人

使用目的 :

事務所使用規定

2002.8.22発効 大阪労山理事会

1. 使用料金

日時に関わらず①各会3,000円

②府連の機関会議2,000円

③大阪労山が主催する各種学校・講習会及び各専門部2,000円

2. 予約方法など

1)上記の②③が優先される。

2)従って、上記機関は3ヶ月前に予約を終えること。

3)各会は1ヶ月前に所定の用紙に記入し、FAXまたは来所の上、

申し込みBOXに提出 FAX: 06-6972-2058

4)理事会及び常任理事会で調整する。(複数使用の場合は当該責任者間で調整する。)

20人前後のミーティングであれば3組程度使用可能

5)日曜日と水曜日に使用した者は、責任をもってゴミを表に出す。

(毎週月曜日と木曜日の早朝にゴミの回収がある。)

6)事務所外から持ち込んだゴミは、全て持ち帰ること。

(カン、ピンは必ず持ち帰って下さい。)

* 事務所使用予約受付担当は、事務局 林 です。